

# 赤谷森林環境保全ふれあいセンターの活動(2123)

赤谷森林環境保全ふれあいセンターでは、「生物多様性の復元」と「持続的な地域作り」に取り組む赤谷プロジェクトの推進と森林環境教育に取り組んでいます。

## 1. 赤谷プロジェクトの推進

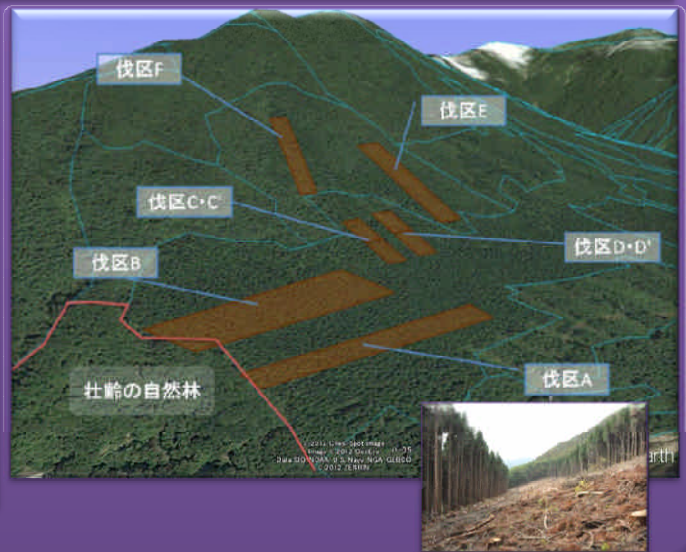
### 自然林復元試験地の設定

「どのようにスギ林を伐採すれば早く自然林に戻るのか」を調査するための試験地を設定しました。

この試験地では、伐採の幅や自然林からの距離が自然林の成林にどのように影響するのかを観察することにしています。

伐採した後は植え付けや下刈りなどはせずに、自然の力で木が生え、生長していくのを見守っていきます。

また、人工林から自然林になっていく途中でそこに住む動物や昆虫がどのように変わっていくかも観察していくことにしています。



### イヌワシ・クマタカの観察

赤谷の森には生態系の頂点に立つイヌワシが1ペアとクマタカが5ペアが生息しています。

イヌワシやクマタカの生活や繁殖状況を観察することで森の豊かさを推測することができます。

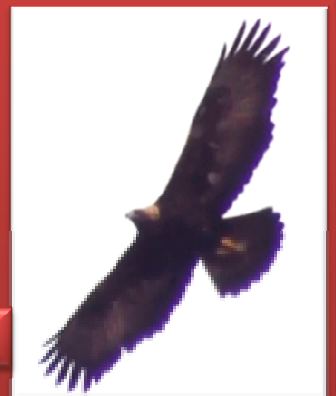
平成23年度は残念なことにイヌワシ・クマタカとも雛鳥の巣立ちは確認できず、繁殖失敗という結果になりました。

しかし、24年3月にイヌワシの雛とクマタカ2ペアの抱卵が確認されています。これらの繁殖成功を期待しつつ、24年度も引き続き観察を行います。



「風の精」イヌワシ→

←「森の精」クマタカ



## 2. 環境教育の実施

小学生から大人まで幅広い方たちに、樹木やそこに暮らす生き物たちの観察をとおして、森林の大切さを伝える活動を行っています。

### 学校行事への協力

10月には新治小学校6年生の遠足のお手伝いをしました。

当日はあいにくの雨でしたが、群馬県から新潟県へと続く旧三国街道を歩きながら、樹木や動物のフィールドサインの観察を行い森のしくみについて学習しました。

お弁当の後には4班に分かれセンサーカメラを取り付けました。一ヶ月後に回収したところ、リスやキツネ、天然記念物のヤマネなどが写っていました。

12月にはセンサーカメラで撮れた写真を題材に事後学習を行いました。



### 赤谷の森自然散策

10月と2月に群馬県内の方を対象に赤谷の森自然散策を行いました。

2月の自然散策では、樹木が葉を落としている間でも樹種の見分けができる”冬芽（ふゆめ）“の観察方法を紹介しました。

また、午後からは雪の上に残されたウサギやイノシシ、ネズミなどの足跡を観察し、冬の間動物の生活に思いをはせました。



### 地域との連携

赤谷プロジェクト地域協議会では、地域の人たちに水源地や水をはぐくむ森の働きを知ってもらおうと毎年「ムタコの日」を開催しています。

カラマツ林での森林再生講座での間伐体験や水生昆虫観察会のお手伝いをしました。

